

フッ化物洗口モデル事業結果報告書

1 経緯

保健所では、令和2年度～3年度に、保育施設においてフッ化物洗口モデル事業を実施しました。この事業を開始する際には、保育所長会でフッ化物洗口の説明をし、協力保育施設を募りました。

令和2年度からS保育園、令和3年度からはR保育園とAK保育園が参加しています。

フッ化物洗口と、フッ化物塗布の比較

	フッ化物洗口	フッ化物塗布
薬剤のにおい、味	ほとんどなし	りんごフレーバー（酸味あり）
使用時の見た目	薄いピンクの水溶液	練り歯磨き様
使用法	30秒程度のうがい	綿球や歯ブラシで塗布
使用後の注意	30分間飲食しない	30分間飲食しない
使用頻度	濃度により毎日又は週2回	年2～3回
年間費用	薬剤だけで一人500円程度 他にうがい用コップが必要	1回あたり保健所料金は740円 年3回なら2,220円
専門家の必要性	必要なし	必要（専門家が塗布する）
*予防効果	30～80%	10～40%

*予防効果は、北海道フッ化物洗口ガイドブック（H21）による

フッ化物洗口は、実施方法は簡易ですが、保育施設で実施する場合には、洗口液を作製したり、一人5mlずつ分配したりという手間が負担となります。しかし専用の溶解瓶で作るため、作製が容易で分配もワンプッシュで5mlと簡単になっているためか、負担になるとの声はありませんでした。

2 モデル事業の結果

今回モデル事業を実施した保育施設では、うがい実施時間は、朝、昼食後、昼寝前など様々でしたが、問題無く実施できていました。

効果については、2年間実施しているところは清掃度がやや高く、効果が見られているように見えます。結果のグラフは 図-1 を参照してください。

同じ保育施設で、口腔清掃状態が良い児とそうでない児の清掃度の差を、上顎、下顎別にみたところ、フッ化物洗口実施施設と未実施施設の差はみられませんでした。

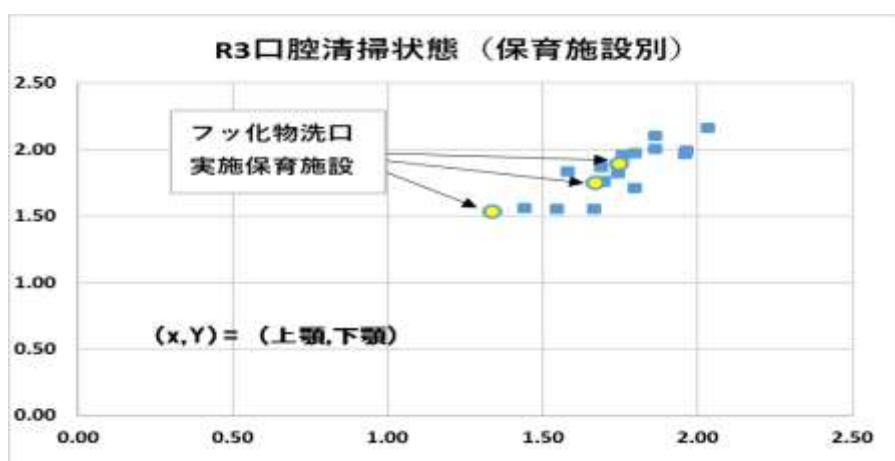
実施期間が短すぎることも差が見られない理由の一つであると思います。

① 保育施設ごとの清掃度

清掃度は、1 歯につき 0~3 点で、上顎下顎とも、前歯と左右臼歯の 3 歯について、上顎は唇面、下顎は舌側面を計測し点数を付けました

保育施設別に、4 歳以上の児が在籍する保育施設 20 か所について平均清掃度を調べて、上顎を X、下顎を Y として、(X,Y) で表示しました。

フッ化物洗口実施保育施設は、3 か所あり、ほぼ 2 年間実施したところは、上顎も下顎も清掃度は最も良好です。1 年未満のところは中間にあり、まだ効果はみられません。

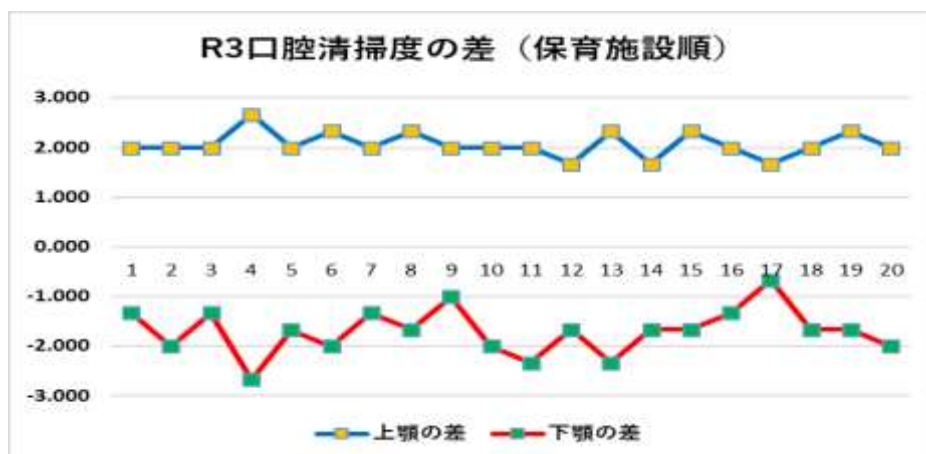


図— 1

② 同一保育施設内の最大値と最小値の差

フッ化物洗口により児の清掃度は差が少ないと仮定し、上顎と下顎で最大値—最小値を計算し清掃度の差を求め、下顎についてはグラフでは負の値で表示しました。

グラフ上で、X 軸より上側に上顎、下側に下顎を表示しました。No4 と No13 の保育施設は上下の開きが大きく、差が大きいですが、その他は差が認められず、フッ化物洗口実施とは関連が見られませんでした。



図— 2

3 父母アンケート

フッ化物洗口モデル事業を実施した後、実施しての感想などをアンケートにより調べました。実施保育施設（下記）に質問紙を配布し、回収したものを集計しています。

令和2年度は、S 保育園	（対象者39名	回収数 34）
令和3年度は、S 保育園	（対象者40名	回収数 21）
R 保育園	（対象者25名	回収数 12）
AK 保育園	（対象者13名	回収数 9）

アンケートが全員に配布されたかどうか未確認ですが、概ね全員に配布されたとすれば、65%程度の回収率となります。

【結果】

問1 お子さんの組は？

年長組	年中組	合計
37	39	76

問2 お子さんはフッ化物洗口をしていますか？

洗口実施	未実施	無回答	合計
66	9	1	76

問3 お子さんのむし歯予防として重視していることに順番を付けてください。

	1番	2番	3番	4番	5番
歯磨き	64	9	1	0	0
甘味摂取	7	13	22	13	2
定期健診	6	11	9	29	3
F利用	7	21	22	8	1
その他	0	2	0	4	27

●その他の内容として詳細を記入しているものは、8件あり内容は下記。

2位として、よく噛む

お口ポカンの予防

4位として、キシリトール100%の飴を食べる

大人と同じ箸を使わない

歯ブラシや歯磨き剤の選定に気を付ける

5位として、マウスウォッシュを使用

炭酸飲料を飲ませない
 歯磨き嫌いにさせない

問4 フッ化物について否定的な意見を聞いたことがありますか？

あり	なし	無回答	合計
16	59	1	76

●否定的意見の内容

全身への害を揚げたもの 11件
 むし歯になる 1件

問5 フッ化物洗口に参加した感想は？（参加した人のみ回答）

良い	良くない	その他	無回答	合計
53	0	11	2	66

●「良い」を選んだ理由（重複回答）

むし歯が無い、むし歯予防になっているなど 11件
 子どもがやりやすい、楽しんでできるなど 4件
 こどものむし歯予防意識の向上など 4件
 歯科医院や保健所に行かなくてもできるなど 2件
 うがいが上達したなど 2件
 歯磨き代わりになる 2件
 フッ素が持続する 1件

●「その他」を選んだ理由

効果、違いなど分からない 5件
 むし歯ができた 1件
 特にない 1件

問6 フッ化物洗口を続けるのに費用負担が必要となった場合、負担しますか？
 （R3年度のみ質問 回答数42）

負担可能	負担不可	その他	未記入	合計
26	10	4	2	42

●その他の詳細としては

高額でなければ負担しても良い

どちらでもよい
国が負担してほしい
効果がわからないし、相場もわからない

●負担するとすれば、年間いくらくらい負担できますか？

<1000円	1000円台	2000円台	3000円台	4000円台	5000円以上 1万未満	1万円以上	合計
8	11	3	2	0	1	1	26

1000円未満では、300円、500円、700円が各2件
600円、800円が各1名
1,000円台では、1,000円が10件
1,200円が1件

4 結果について

今回のアンケートは、フッ化物洗口を行っている保育施設で行いました。

問2を見ると、洗口している児が多いが、しない児もいることから、選択の自由があるとも言えますが、フッ化物洗口の情報を更に伝えることも必要となるでしょう。

問3を見ると、むし歯予防に対しては、最も気を付けているのは「歯磨き」となっています。歯磨き時のフッ化物入り歯磨剤の使用が、むし歯予防のためには必須であることから、日頃より歯磨剤の使用の情報も伝えていくことが必要です。

問4を見ると、フッ化物洗口に対して否定的な意見を聞いたことがある人は、思いのほか少ないことがわかります。否定的意見を複数書いた方が1名いましたが、その他の方は、「害があると聞いたことがある」という程度で、フッ化物洗口の認知度が高まり、抵抗感が少なくなっていると思われる反面、正しい情報提供を続ける必要性を感じました。

問5を見ると、フッ化物洗口を行って良かったという肯定的意見が多くあり、今回のモデル事業が受け入れられていることがうかがえます。モデル事業以後は三施設とも継続実施の予定であると聞いています。

問6を見ると、モデル事業終了後は、フッ化物洗口には自己負担が必要となることを踏まえて、負担可能な金額を聞きました。実際にかかった費用（洗口用紙コップと薬剤）は、週2回法では一人当たり500円程度、毎日法では700円程度と概算されるので、父母の回答と合致していると思われます。紙コップではなく、プラスチックのコップを使用することで費用を抑えることができます。